



No.1 土地利用型農業法人の早期経営安定

- 活動期間 令和3年度～令和4年度
- 対象者名 涌谷町 農事組合法人おさとファーム 理事5名
- 課題の背景
 - ・令和元年9月に組合員15名で設立し、経営面積は令和4年度計画で水稻5.4ha（うち飼料用米3.2ha）、大豆23ha、小麦（令和4年秋播種）10haである。
 - ・法人の経営エリアでは、ほ場整備事業が実施され、今後、経営面積が拡大する見込みである。組合員15名のうち実際作業に出役している組合員は8名で、理事の平均年齢は高く、早期に後継者の確保対策を講じる必要がある。
 - ・法人設立時に、中期経営計画を策定したが、その後修正、見直しは行っておらず、労働力の分配や機械の利用等、計画的な法人運営には至っていない。
 - ・法人の基幹作物である大豆や麦の栽培経験が少なく、今後経営を安定させていくためには、栽培技術の習得による収量の確保と、「米－麦（大麦，小麦）－大豆」の輪作体系の確立が必要である。

令和4年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ■ 法人の経営計画が着実に実行され、持続的な経営が可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 法人経営管理技術向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第3期決算書から売上げが伸び従事分量配当額を削減するなど、営農努力による経営改善が見られた。余剰金を経営基盤強化準備金に繰り入れ、将来への備えを始めた。 ■ 経営承継を見据えた後継者確保について話し合い、今年から草刈り作業を組合員に委託し、組合員全員が参加するようになった。後継者育成を含めた中期経営計画作成を指導した。 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産性の高い土地利用型作物生産が行われ、法人経営が安定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 転作作物の栽培技術向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大豆生産については、一番早いほ場で5/23に播種しているが、5月下旬から6月中旬の降雨により播種作業が中断し、その後6月下旬より作業を再開した。7/15の大雨による浸水で一部ほ場では発芽不良により栽培を断念した。 ■ ほ場毎の生育ステージに応じた栽培管理について丁寧に説明した。 ■ 生育ステージに応じた栽培技術を習得しつつある。 

意図する対象の変化（最終年度）

- 法人の経営計画が着実に実行され、持続的な経営が可能になる。
- 生産性の高い土地利用型作物生産が行われ、法人経営が安定する。

数値目標：策定計画数 R2年 0 → R3年 1 → R4年 2
 （単年度計画） （単年度計画，中期計画）